

「林地の価値最大化」突き進む

バイオマスパワーテクノロジーズ(三重県松阪市)の北角強社長は「地域に賦存する資源を使い、地域のレジリエンス(復元力)を高めていきたい」と強調する。同社は2018年、松阪市内で木質バイオマス発電所を稼働。さらに近隣の山林の所有や管理にも自ら乗りだすなど「林地の価値最大化」(北角社長)に突き進んでいる。

同社発電所は、再生可能エネルギー固定価格買い取り制度(FIT)で買取価格が上がる2000キロワット未満ぎりぎりの1990キロワットに発電能力を抑えた。あくまで近隣の未利用資源を活用し、小規模な分散型電源として地域に貢献することが狙い。

バイオマスパワー
テクノロジーズ

(三重県松阪市)

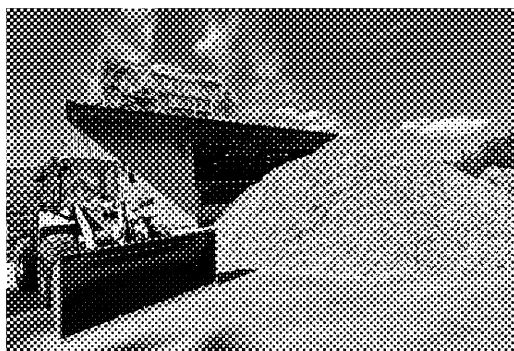
この街この街 注目企業

⑤

いだからだ。

エネルギー利用も困難と燃料とするのは処理困されていたものだ。バー難材(バーク)。ストックはバイオマス発電用のクヤードで丸太を長期間 木材チップの生産時にも保存する際、はがれてし 発生するが、これまで産まう皮の部分など、発電 業廃棄物として処理する

エネルギー利用も困難と



松阪市内で稼働中のバイオマス発電所

う。

同社ではFITを活用しない小規模バイオマス発電にも取り組んでおり、25年にはホクト(長野市)の三重きこセンター(三重県多気町)から排出された使用済み培地を燃料とした発電所の稼働も計画する。

(随時掲載)

企業

枚方信用金庫寝屋川西支店・新宮幸太郎支店長 バイオマスによる地方創生エネルギー事業「資源循環型経済社会」を形成している。新しい時代のエネルギー経済を創り上げることと期待している。地域金融機関として今後とともに持続可能な地域社会を創りたい。